

## 裁判員等に対するアンケートの分析について

### 第1 最終報告書の作成

裁判員等に対するアンケートは、平成21年12月末までに回収されたものを収集・分析し、平成22年3月末までに最終報告書に取りまとめることを予定

### 第2 最終報告書に登載することを予定している内容

- 1 調査概要
- 2 裁判員・補充裁判員・裁判員候補者別の調査対象者属性
- 3 調査結果をグラフ等にまとめた調査結果のダイジェスト
- 4 単純集計結果
- 5 クロス集計結果
- 6 自由記載回答(一定の視点で分類の上、登載)  
「裁判員制度の運用等に関するアンケート 平成21年8、9月分調査報告書」(資料2-3)には、1ないし3及び5の一部(グラフ化したもの)を登載済み

### 第3 分析の視点

- 1 本アンケートの趣旨  
客観的な統計データでは把握しきれない主観的な要素(感想,思い,声など)を把握し、その検討・分析を通じ運用改善に役立てる
- 2 第2の5(クロス集計)について
  - (1) 目的  
各設問について、回答に影響を与える主要な要素として想定される他の設問の回答等とクロス集計することにより、1の趣旨をより明確化
  - (2) クロス集計の視点(手続ごとに想定される主な変動要素)
    - ア 審理のわかりやすさに関する回答に影響を与えると思われる要素
      - ・ 審理の実日数
      - ・ 自白・否認の別
    - イ 評議に関する回答に影響を与えると思われる要素
      - ・ 審理の実日数
      - ・ 自白・否認の別
      - ・ 審理のわかりやすさ(法曹三者の説明等のわかりやすさも含む)
    - ウ 裁判員として裁判に参加した感想に関する回答に影響を与えると思われる要素
      - ・ 審理の実日数
      - ・ 自白・否認の別
      - ・ 審理のわかりやすさ(法曹三者の説明等のわかりやすさも含む)
      - ・ 裁判員に選ばれる前の気持ち別
      - ・ 裁判所の対応
- 3 第2の6(自由記載欄の分類)について
  - (1) 目的  
自由記載式の回答については、そのまま羅列するのでは、見にくく、検証の役にも立たない。そこで、検証に資する資料とするために一定の分類・整理が必要
  - (2) 分類の視点  
各設問には、それぞれ検証すべき目的が存する。これに、実際の回答振りをも踏まえ、当該設問ですくい取りたい事項について、分類項目を設定し、その項目ごとに、「肯定的な意見・否定的な意見・その他」といった内容別

に分類・整理していくのが相当(分類項目名は、集計作業時の便宜のため付したものの。最終報告書に掲載する分類項目名は、最終的な集計結果をみながら決定)

主な分類項目としては以下のものが考えられる。

- ア 法廷の手續全般について理解しにくかった理由  
事件の内容が複雑、証拠や証人が多数であったなど、他の選択肢を敷衍する内容が多いと思われるので、各選択肢を基本とした分類・整理
- イ 評議  
裁判官の進行や意見を述べやすかったかなど、評議の在り方に関し、課題となりうる事項ごとに分類・整理
- ウ 裁判員等として裁判に参加することの意識  
参加意識の内容ごとに回答を整理。なお、消極的な参加意識については、参加の支障となると考えられる事項ごとに分類・整理
- エ 選任手續  
進行の手續、説明のわかりやすさ、待ち時間の長さに関する感想など、問題となりうる事項ごとに分類・整理
- オ 裁判所の対応、その他  
事前送付物、環境整備(育児・介護など)に関する情報提供、職員の対応、裁判所の設備など、課題となりうる事項ごとに分類・整理

以上